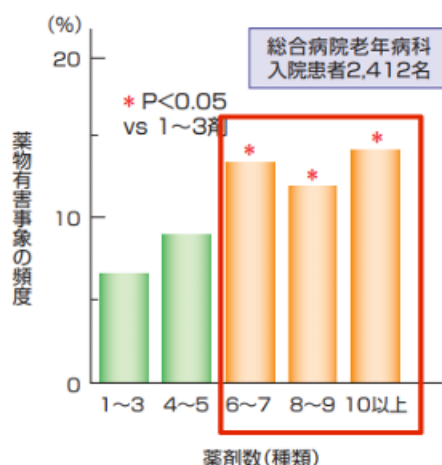


「ポリファーマシー」をご存知ですか？

ポリファーマシーとは、「**多剤服用のうち害のある状態**」を表します。これは単に「薬の数が多い」ことではなく、それに関連して薬の副作用などの有害事象のリスクの増加、服薬忘れ・服用間違い、薬への理解が低下する等の問題につながる状態を指します。

服用薬剤数と薬物有害事象の頻度



左図のように 6 剤以上の服薬が有害事象発生に関連していることから、**6 剤以上**がポリファーマシーの目安とされています。しかし、必要な薬まで削るのは**本末転倒**…

薬の数だけに着目するのではなく、
処方内容の適正化が重要！
「必要な薬を必要なだけ」

出典：厚労省 地域におけるポリファーマシー対策の普及啓発用資料

✓ なぜポリファーマシーが起こるの？

- ①複数の病気を抱えており、いくつもの医療機関を受診するため薬が多くなる
- ②薬による有害事象が新たな病状として誤認され、それに対する薬がさらに処方される など

✓ ポリファーマシーの問題点

- 薬剤費の増大は医療費の増大の大きな原因
- 残薬の発生 (**処方されても使用されない薬は年間約 500 億円**)
- 多剤服薬でふらつきが出るなど生活の質の低下を招くことも
- 薬の相互作用や飲み間違いによる薬物有害事象の増加



✓ ポリファーマシーを防ぐ鍵は「情報共有」

■「お薬手帳」を活用しましょう！

お薬手帳は **1 つ**にまとめ、医療機関に行く際は必ず持参しましょう。

■かかりつけ医、かかりつけ薬局を持ちましょう！

かかりつけ医やかかりつけ薬局を持ち、病気や薬について情報共有をしておきましょう。お薬が多いと感じた時は、相談してみましょう。

**※疾患によっては 6 剤以上の薬が必要な場合があります。
自己判断で服薬を中止しないようお願いします。**